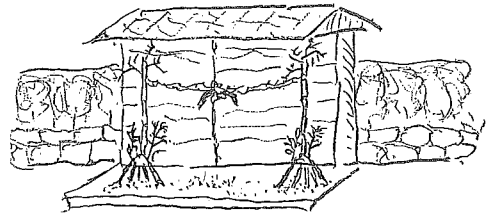


かどまつ しめなわ
知覧の門松と注連縄

門松

○ 供える場所

⇒ 屋敷などの門の前や様々な入口



○ 供えるもの

⇒ 前白砂(シラス)、その上に竹・松・梅・ゆづり葉を

立てて薪の割れ木を片方3本合計6本を横に置

く。竹は高くしてその間を注連縄をはる。

▲ 薪の割れ木を置く理由

薪の割れ方が刃物のようななっていて、その刃で悪い物が入らないよう願ったため。

○ 正月7日以降は門松はどうなる

⇒ 鬼火焚きで、門松を燃やす。その後はシラスの

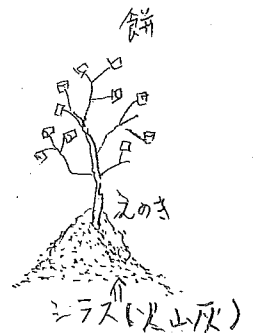
上にとげのあるタラの木とモロモロ(イヌガヤ)の

木の葉を置く。

▲ とげのある木や先のとがった葉が魔物を防ぐため。

○ 14日以降はどうなる

⇒ タラの木とモロモロの葉を取り除き、代わって川柳の木を薄く削りかけ渦上に残したものをシラスにさし、えのきの枝にサイコロ状の餅を付けたものを神棚やかまどのある部屋の隅に置く。



▲ 正月は悪い物が横行している月なので、それらが入ってこないよう三段階にわたって防いでいるといわれる。